

あし

TAKUSUI
No. 746

12
December 2018

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



魚の棚商店街 マンホールのふた (明石市)

兵庫県水産賞 決定 虹の仲間で森づくり 実施

《今月の海上安全標語》～ 良い年を迎えるために… ～

LJ (ライフジャケット) は、あなたの命を守ります!

新しい年を楽しく迎えるためにも、忘れず着用して下さい!!

ライフジャケ

LJ 着けて納める 今年の操業

では、来年も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

(ようこそとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる)

波の世界へ

兵庫県農政環境部水産課 主査 中桐 栄



4月から県水産課で組合指導を担当しています。よろしくお願ひします。以下、「である」調で失礼します。

学生時代、「今までにやったことがないことをやろうー!」と思い立ち、カヌー部に所属した。当時のカヌーは誰も知らない「何それ?」のスポーツであった。また、骨と皮のみという体格の私では、全く試合では勝てなかったし、対抗戦もお呼びでなかった。競技に関しては、特にいい思い出もなく、早朝ランニング、過酷な乗艇練習、夕刻の筋トレ、合宿をただ繰り返すのみ。でも辞めなかった。なぜか。

それは、一度波に漕ぎ出せば、陸の束縛から切り離された自由な感覚と浮遊感、自然との一体感が得られたからに他ならない。

「私のことはイシユメールとでも呼んでもらおう。(中略)陸地ではこれという面白いこともないので、しばらく船に乗って、水の世界を見てこようと思った。私にとっては、それが憂鬱を追い払って、血行を良くする方法だったのだ。」白鯨(メルヴィル著)の冒頭である。「おお!」と納得した。この感覚こそ、多くの人が波の世界に魅了される源泉なのではないか。

そこは、心躍る楽しい場所であり、危険な場所でもある。今でも南方の島に出かけてカヌーを漕ぐが、時折、部活教官が言っていた「板子一枚下は地獄」という言葉が頭をよぎる。優れたカヌイストだろうが、泳ぎが達者だろうが、沖で「沈」すれば無力である。それでも波に漕ぎ出してしまうのは「あやかし」の作業なのかも知れない。

私のように趣味で楽しむ波の世界ではなく、仕事で波の世界を股に掛ける漁業者が、ときには壮絶な体験をしながら、自然相手の状況判断や技術を磨き続けて、海を自分のものとしていくことに感服する。

微力ではあるが、機会があれば漁船で海に出て、漁業の現状を学ばせてもらいながら、兵庫県の水産業のため、自分ができることに取り組みたい。



CONTENTS

No.746 December. 2018

- 2 ようこそ
- 3 兵庫県水産賞 受賞者決定
兵庫県水産系統団体役職員OB会
- 4 JF全漁連 自民党本部で全国漁民代表者集会
- 5 第69回 全国漁港漁場大会への参加と政府等への予算要望活動
- 6 第1回 東部瀬戸内海研究集会
- 7 虹の仲間て森づくり
近畿中国四国地区漁青連ブロック会議
- 8 ひょうご豊かな海パートナーイベント実施
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う
大輪田塾だより



「魚の棚商店街 マンホールのふた」(明石市) 表紙の言葉

明石の観光名所である魚の棚商店街に、明石たこ大使を務める「さかなクン」のイラストが描かれたマンホールのふたが、海のまち明石の魅力発信と来年の明石市制100周年をPRするため設置されました。

マンホールふたには明石にゆかりの魚介類 全19種類の正式名称および明石での呼び名も描かれています。

みなさま、水産会館を訪れた際に商店街でふたを探してはいかがでしょうか。

県農林水産業の功労者表彰

“平成30年度 兵庫県水産賞” 受賞者決定



受賞者の皆様(左から中谷様ご夫妻、西村様ご夫妻、中尾様ご夫妻)

永年にわたり農林水産業の振興発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の3賞表彰式が、12月4日(火) 県公館(神戸市中央区)で行われました。

今年度の兵庫県水産賞はJF明石浦 中谷淳一さん(71)、JF南あわじ 中尾 満男さん(53)、JF但馬 西村 護さん(75)の3名の方が受賞されました。表彰式では井戸敏三知事から表彰状ならびに記念の盾が贈られました。受賞されました皆様には、心よりお慶び申し上げます。

氏名	所属	功績内容
なかたに じゅんいち 中谷 淳一	JF明石浦	組合運営の充実や海苔養殖生産時術の向上と増産への貢献
なか お みつ お 中尾 満男	JF南あわじ	わかめ養殖業の振興や漁協経営の安定化への貢献
にしむら まもる 西村 護	JF但馬	沖合底びき網漁業の振興と漁協運営の安定化への貢献

(敬称略)



平成30年度 兵庫県水産系統団体

役員OB会総会

11月14日(水)、兵庫県水産会館において「平成30年度 兵庫県水産系統団体役員OB会総会」が開催され、会員34名が出席しました。

開会にあたり、出席者一同は、この一年間に亡くなられた会員に対して黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。その後、戸田幹事長より「今年は、これまでと少し趣向を変え、兵庫の漁業拠点である兵庫県水産会館で現役員を交えて開催した中、多くの方が参加されており、うれしく思います。今後一人でも多くの方の参加をお願いします。年に一度の懇談の場なので、大いに旧交を温めてもらいたい」と挨拶をされました。続いて、来賓のJF兵庫漁連 田沼会長から祝辞がありました。

戸田幹事長が議事進行を行ない、議案の収支決算報告及び収支計画は原案どおり承認されました。

続く懇親会では田尻重孝氏の乾杯の音頭により幕が上がり、終始和やかな雰囲気の中、時間の経過も忘れて歓談がすすみました。

最後に山里副幹事長から「元気で、また来年会いましょう」と力強い閉会の挨拶があり、懇親会は終了いたしました。

(文：JF兵庫漁連)



参加者全員での記念撮影

JF全漁連、自民党本部で全国漁民代表者集会を開催 革新的な政策の確立と裏付けとなる予算の確保求める 国会議員、JFグループ関係者ら約600人が集結



JF全漁連は11月13日、自民党本部で「我が国漁業の将来展望を切り拓く革新的な政策の確立を求める全国漁民代表者集会」を開催し、水産政策の改革によって我が国漁業の将来を切り拓くために不可欠である「革新的な政策の確立」と「裏付けとなる予算の確保」を求めるとともに、漁業者自らが水産政策の改革の方向性を理解できるものとし、浜の再生に取り組むことを誓いました。

集会には、自民党国会議員92名、JFグループ関係者約500人が集まり、本県からはJF組合長ら22人が参加しました。

開会に先立ち、会場に駆けつけた加藤勝信自民党総務会長は「本日は、私たちの海、浜をしっかり守っていただいている漁業者の皆さんに将来の展望を拓いていただける機会にしてください。」と挨拶されました。

その後、主催者を代表して岸宏JF全漁連会長が、「漁業法等改正案が自民党における厳しい協議を経てとりまとめられたことから、JFグループとしても受け入れる判断をし、11月6日に閣議決定された。運用については政省令等に委ねられた部分が多く、その検討段階でも漁業者の意見を十分に



全漁連 岸会長

聞き、漁業者の理解、納得を得た上で進めて欲しい。また、水産政策の改革に係る財政措置については、「今後、全国の浜が明るい展望を拓いていくために従来の発想にとらわれない革新的な政策が必要」とし、来年度予算の概算要求で示された3,000億円超の満額確保を求めたほか、補正予算について、漁船リース事業やセーフティネット構築事業の大幅な拡充、強化について要望しました。

続く意見表明では、川越一男組合長（JF浜坂）が、昨今の燃油高騰の問題について「今の燃油価格が続けばこれまでの省エネ操業の取組も漁業所得の向上を目指す浜プランの取組も困難な状況になる」と指摘し、「漁業経営セーフティネット構築事業には感謝しているが、漁業の成長産業化のために、さらなる対策をお願いしたい」また、山本幸弘組合長（青森・JF深浦）が、「浜を説得できる予算確保を実現してほしい」と強く訴えました。

その後、川崎一好JF全漁連副会長が「我が国漁業の将来展望を切り拓く革新的な政策の確立を求める要書」を読み上げ、満場の拍手で採択されました。自民党を代表し

て浜田靖一水産総合調査会長が決意表明を行い、「水産政策の改革を進めるには漁業者の皆さんが理解できることが一番重要だと考えており、改革は漁業者の理解無くして前に進められない。我々としても皆さん方のやる気と理解をさらに深めるために概算要求で示された予算を確保していきたい。燃油高騰対策については水産庁と財政当局が、皆さん方が安心して漁に出られるような対策を検討している」と聞いている。我々として



意見表明する川越組合長

も必ず燃油対策を前に進めることを約束する」と述べられました。

最後に、平山孝文JF全国漁青連会長のリードの下、参加者全員が「燃油高騰対策の実現」、「革新的な政策の確立」、「予算概算要求の満額確保」を求めるシュプレヒコールを行い、閉会しました。

集会後、代表者が自民党の二階俊博幹事長、吉川貴盛農林水産大臣、長谷成人水産庁長官のもとを訪れ要書を手渡しました。

我が国漁業の将来展望を切り拓く 革新的な政策の確立を求める決議

我々漁業者は、水産食料の安定供給等の使命を果たすため、厳しい環境の中、浜プランの実践等、幅広い改革に取り組み、所得向上や地域の活性化等、大きな成果を挙げている。

このような中、本年6月、水産政策改革の方向性が公表され、関連制度の見直し等の議論が進められているが、改革の実行者である漁業者が理解し、実践できるものとしていかなければならない。

併せて、我々漁業者が水産改革の復活に向けて、自らの課題としてさらなる取組を進めていくためには、国が、改革によって実現する我が国漁業の将来展望を示すとともに、その実現に必要な革新的な政策の確立と裏付けとなる予算を確保しなければならない。

については、下記事項の実現を、国に強く求めることをここに決議する。

記

1. 我が国漁業の将来展望を切り拓く革新的な政策を確立すること。
2. 政策の実践に必要な水産予算概算要求の満額確保を図るとともに、補正予算の必要額の獲得を図ること。

以上

2018年11月13日

我が国漁業の将来展望を切り拓く革新的な政策の確立を求める全国漁民代表者集会
全国漁業協同組合連合会

第69回全国漁港漁場大会への参加と 政府等への予算要望活動

10月26日、大阪府泉佐野市エブノ泉の森ホールにおいて「第69回全国漁港漁場大会」が開催され、兵庫県漁港漁場協会から浜上 勇人（香美町長）会長、田沼 政男（兵庫県漁業協同組合連合会代表理事会長）副会長をはじめ27名が参加しました。

1泊2日の行程で、初日の25日は佐野漁港の視察研修を行いました。管理者（大阪府）から、佐野漁港は第2種漁港であるが全国で唯一、外航船のタンカーや貨物船が入港すること、「泉佐野漁協青空市場」と呼ばれる市場内には29の商店と2軒の食事処があり、市場で購入した新鮮な食材をその場で焼いて食べることができ人気があること、大勢の人が訪れ楽しんでいる賑わいのある漁港であることなど、漁港の概要説明がありました。説明会場である「いずみさの関空マリナー」から外に出ると海鮮焼市場があり、そこでタコ飯とワタリガニの味噌汁がふるまわれ、多数の参加者が舌鼓を打ちました。

25日の夜は、大会会場から約1時間ほどの所にある和歌の浦に宿泊し、懇親を深めました。和歌の浦は、非常に歴史のある風光明媚な地で、万葉の歌人、山部赤人や明石にも馴

染みの深い柿本人麻呂をはじめ、文人墨客に愛され詠われた景勝の地です。この地名は、和歌山県の名前のルーツでもあり、2017年4月には文化庁の日本遺産にも認定されたところです。

26日の大会には約1,300人が全国から参加し、橋本 牧 公益社団法人全国漁港漁場協会長による主催者挨拶、高鳥 修一 農林水産副大臣による来賓祝辞などがあり、その後、付議議案「平成31年度漁港・漁場・漁村・海岸整備予算の確保に関する件」について、静岡県漁港漁場協会会長が提案理由を説明し、満場一致で議決されました。続いて、議決された内容を取りまとめた提言案を大分県漁港漁場協合理事が朗読し、採択されました。この採択された提言をもとに、政府及び各都道府県の地元選出国會議員等に働きかけ、提言事項の実現に努めることを参加者の総意として確認し、議事が終了しました。

2019年の第70回全国漁港漁場大会は10月29日に広島県福山市で開催されることと決定しており、広島県漁港協会会長が挨拶をされ、閉会の挨拶を大会実行委員会委員長（泉佐野市副市長）が行い、大会は無事終了しました。

帰路では、海遊館のバックヤード見学を行いました。2班に分かれて案内していただき、ジンベイザメが人を恐れない給餌による訓練や魚種によるエサの違い、安価なエサの確保、串本沖から運ぶ水槽の海水の入れ替えなどの

説明を受けました。若年層のスタッフが多い中であって、説明担当の女性職員は非常に知識が豊富で、近畿大学水産学部出身とお聞きし、なぜここで働いているのか尋ねたところ、「船に酔うから」との落ちがありました。

本大会で採択された提言については、8月28日の第58回 兵庫県漁港漁場大会で議決された4項目と併せて、11月15日に兵庫県協会役員及び関係者が県選出国會議員に直接要望活動を行いました。また、近畿ブロック漁港漁場協会協議会の幹事として、三重県協会と合同で国土交通省へ予算要望活動を行い、力強いご支援のお言葉などを頂戴しました。

来年の第70回全国漁港漁場大会には、例年以上に皆様方のご参加があることを期待しております。

兵庫県水産振興議員連盟役員へ 要望書提出

～第58回兵庫県漁港漁場大会決議事項の実現を要望～

平成30年11月22日、兵庫県水産振興議員連盟役員（会長 永田 秀一）と兵庫県漁港漁場協会役員（会長 浜上 勇人）との懇談会が開催されました。

兵庫県水産振興議員連盟からは、永田 秀一（会長）、岸本 かずなお（副会長）、松本 隆弘（事務局長）、上田 良介（事務局次長）、伊藤 勝正（幹事）の5名の議員のご出席をいただき、協会からは、浜上 勇人 会長、田沼 政男 副会長、門 康彦 副会長の代理として長濱 康之 淡路市副市長、事務局長の4名が出席しました。さらには、兵庫県からも石井 農林水産局長、平石 水産課長、今井 漁

港課長の出席をいただき、平成30年8月28日の第58回兵庫県漁港漁場大会において決議された「漁港漁場整備長期計画の推進と平成31年度予算の確保」など4項目の決議事項の実現について、浜上 会長から永田 会長に要望しました。引き続き、豊かな海づくりの現状や台風の被害、漁港の地震・津波対策などについて熱心な意見交換が行われました。



水産海洋地域研究集会

第1回 東部瀬戸内海研究集会

「東部瀬戸内海のイカナゴ資源と環境を考える」開催

11月21日（水）明石市立市民会館中ホールにて、水産海洋地域研究集会 第1回 東部瀬戸内海研究集会「東部瀬戸内海のイカナゴ資源と環境を考える」（共催：一般社団法人水産海洋学会、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所水産研究部、兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター 後援：兵庫県漁業協同組合連合会、大阪府漁業協同組合連合会）が開催されました。

イカナゴは東部瀬戸内海地域の船びき網漁業やコマセ網漁業などの重要な漁獲対象資源であり、生の新鮮な稚魚を甘辛い佃煮にした「くぎ煮」が季節の風物詩になるなど、地域住民の食文化の面でも欠かせないものとなっています。この資源を持続的に活用するため、当海域では従来からきめ細かい資源管理型漁業が行われてきましたが、その漁獲量は近年大きく変動しながら著しく減少しております。

本研究集会は、現在進行形の調査研究も含めて、当海域のイカナゴ資源とそれを取り巻く環境に関する最新情報を

有することを目的とするとともに、今後の対策の方向性についても論議し、研究者のみならず、漁業関係者や行政担当者等からの情報提供や意見



を得るために開催され、291名の参加者があり、関心の高さがうかがえました。

研究集会では、イカナゴの資源状況からイカナゴを取り巻く環境や資源特性など多岐にわたる研究発表がなされ、様々な意見交換が行われました。（表参照）

発表内容	発表者
1. 東部瀬戸内海におけるイカナゴ資源の実態とその現状	高橋 正知（水産機構瀬水研）
2. ボンゴネット調査からみた大阪湾におけるイカナゴ仔魚の出現状況	大美 博昭（大阪環農水研）
3. 大阪湾・播磨灘におけるイカナゴの資源動向 ～資源の持続的利用を図るためには～	魚住 香織（兵庫農水技総セ）
4. 備讃瀬戸のイカナゴを取り巻く環境と資源特性	赤井 紀子（香川水試）
5. 播磨灘における夏眠期のイカナゴ肥満度	西川 哲也（兵庫農水技総セ）
6. 大阪湾の冬春季における低次生産環境の変化について	山本 圭吾（大阪環農水研）
7. イカナゴの新子はほんとうに痩せてきているのか？ ～大阪湾・播磨灘における漁獲対象期のイカナゴ0歳魚の肥満度の長期変化～	反田 實（兵庫農水技総セ）
8. 冬季播磨灘におけるイカナゴ胃内容物から推定された餌料環境の経年変化と近年の低次生産に関する一考察	橋口 晴穂（日本海洋生物研究所）
9. 低次生態系モデルと連動したイカナゴ生活史モデル（大阪湾・播磨灘イカナゴ資源漁業モデル）の開発	市川 哲也（サイエンスアンドテクノロジー）

（発表順：敬称略）

虹の仲間で森づくり

～神出神社(神戸市西区) 周辺で開催～



漁業者と消費者が共に手を携えて、豊かな海を支える森を育てていくことを目的に、コープこうべとJF兵庫庫漁連が共同で取り組んでいる「虹の仲間森づくり」は今年で12回目の開催となります。

快晴に恵まれた12月1日(土)、神戸市西区にある雌岡山(神出神社周辺)に県内各地からJFグループ関係者、コープこうべの会員や行政関係者など約160名が集まりました。JF兵庫庫漁連突々 淳専務の挨拶、ひょうご森の倶楽部 山下 広行会長より作業の注意事項説明の後、全員で準備運動を行いました。

この後、ヘルメット姿の参加者は18班に分かれ、NPO法人「ひょうご森の倶楽部」の指導員の皆さんに誘導され、次々に森に入りました。各班ごとに分かれ、再度指導員の方



日が差し込む森になりました

から説明を受けた後、参加者は周囲に気を配りながら、広葉樹や花の咲く樹を残し、常緑樹や蔓性の植物を次々に除伐し、クマザサなどの下草も刈り取りました。約2時間の作業を終えると、地面を覆っていたクマザサも無くなり、太陽の光が差し込み、見通しの利くきれいな森になりました。作業を行った皆さんは、「目に見えて日が差し込むようになった」と嬉しそうに話していました。

この後、兵庫のりを使った巻き寿司、カキの味噌汁等が振る舞われ、同じ班のメンバーと楽しい昼食の時間を過ごしました。

森の中で、木を切る、という作業なのですが、たいへん、おもしろい、という感想が多く、何度も繰り返し参加している方が多い活動です。皆様も一度、是非参加してみてください。

近畿中国四国地区漁青連ブロック会議が

兵庫県で開催

近畿中国四国地区漁青連ブロック会議が平成30年11月16日(金)にホテル北野プラザ六甲荘にて開催され約50名が参加しました。本会議は、近畿中国四国地区より青壮年部員が一堂に集い、水産業を巡る様々な問題に対し、討議・意見・情報交換し、県域を越えた連携強化を図ることを目的として、毎年、開催されております。

会議の冒頭主催者を代表し、兵庫県漁青連山崎会長が「本ブロックでは、瀬戸内海、日本海、太平洋、琵琶湖といった複数の海域で多種多様な漁業が行われる中、各府県が共通して活動している【魚食普及】と兵庫県漁連が中心となり取り組んでいる【豊かな海の再生】をテーマとして本年度は開催させていただいた」と挨拶がありました。

続いて「兵庫県の漁業概要」と題して、兵庫県水産課 内田主幹が、瀬戸内海と日本海で行われる漁業種類の特徴や漁獲量等について講演されました。

次に県内の魚食普及活動の事例として「ひょうご地魚プロジェクト」について、JF兵庫漁連指導部 田中部長より、「香美町と活隊」について、香美町と活隊 西上隊員(兵庫県水産振興基金 西上課長代理)が、活動の開始経緯や内容等について講演しました。

最後に「豊かな海



の再生」と題して、兵庫県水産課大石班長より、瀬戸内海の水環境の歴史に始まり栄養塩と漁獲量の相関関係、豊かな海の再生に向けた取組の活動事例について講演がありました。

翌17日(土)には場所を淡路市に移し、現地視察研修として、道の駅あわじで「淡路島の生シラス丼」の取組について、淡路観光開発公社倉本部長より概要説明をいただいた後、施設見学を行いました。最後に「生シラス丼」を参加者に試食いただきました。あまりの美味しさにおかわりをする参加者もいました。

その後、JF淡路島岩屋の荷捌所で山崎会長所有の漁船を始め、実際の船舶や機械類の前に意見交換を行いました。

会議とは一変し、予定時間を大幅に超える活発な意見交換が行われる中、続きは次年度開催県である山口県で行うことを約束し、閉会となりました。



ひょうご豊かな海発信プロジェクト

豊かな海って何だろう!?

～ひょうご豊かな海パートナーイベント実施～

ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会（突々 淳会長）は、多様な生命を育む「豊かで美しい海」の必要性を多くの県民の皆様にも考えていただく契機とするため、「ひょうご豊かな海発信プロジェクト」に取り組んでいます。

その一環として、県下各地で行われるイベント会場にてパネル展示やクイズ等を通じ、現在の海の豊かさを支える窒素やリンなどの陸から海へ流れる栄養が減少し、海の貧栄養化が進み、生物が育ちにくくなっている状況を説明しています。

たくさんのお恵みを得ることができる「豊かで美しい海」を実現するために、森・川・街・海・魚・人のつながりを多くの人に伝える活動はこれからも続きます。

ひょうご豊かな海発信プロジェクト協議会（突々 淳会長）は、多様な生命を育む「豊かで美しい海」の必要性を多くの県民の皆様にも考えていただく契機とするため、「ひょうご豊かな海発信プロジェクト」に取り組んでいます。



ひょうご豊かな海発信プロジェクト パートナーイベント 参加状況一覧表

開催日	イベント名	場所
9月22日	ひょうごまるごと健康チャレンジ2018キックオフイベント「食べるとはかる」	コープこうべ協同学苑
10月20日・21日	兵庫県民農林漁業祭	明石城公園
11月3日	第52回 みのりの祭典	湊川公園
11月10日・11日	食のブランド「淡路島」オータムメッセ2018	淡路オノコロパーク
11月11日	室乃津祭	室津漁港
11月17日	浜坂みなとカニ祭り	浜坂漁港
11月18日	かすみ松葉がにまつり	香住漁港
11月18日	家島・坊勢とれとれ祭り、ぼうぜ鯖祭り	妻鹿漁港(姫路とれとれ市場)
11月25日	淡路島3年とらふぐ祭	福良漁港
11月29日	2018ため池フォーラム in ひょうご	松方ホール
特 別 展		
7月14日～12月2日	海からみた兵庫県 ～二つの海にはさまれて～	神戸市立須磨海浜水族園
10月20日～12月28日	みんな知ってる?ひょうごの水産業～豊かな海ってなんだろう?	姫路市立水族館



2018ため池フォーラム in ひょうご



家島・坊勢とれとれ祭り、ぼうぜ鯖祭り



食のブランド「淡路島」オータムメッセ2018



淡路島3年とらふぐ祭



第52回 みのりの祭典



かすみ松葉がにまつり



兵庫県民農林漁業祭

タマネギの生産振興を

JAみのり

JAみのりは、「持続可能な農業の実現」「豊かでくらしやすい地域社会の実現」「協同組合としての役割発揮」の3つをテーマに、JA自己改革を進めています。農業者の所得増大と農業生産の拡大を目的としたタマネギの生産拡大の取り組みを紹介します。

同JAは、平成28年から水稻を収穫した後に栽培できるタマネギに注目。タマネギ生産に必要な機械をJAがそろえ生産者に貸し出す、リース事業を始め、組合員から好評を得ています。機械を使用することで作業効率を上げ、生産拡大を目指しています。

また、8月には、消費拡大と次世代組合員との関係強化を目的にして、タマネギをテーマとした親子クッキングコンテストを開きました。書類審査を通過した4組の親子がタマネギ料理を披露しました。同JAは「コンテストをすることで、地域の皆様に地元でタマネギが生産されていることを知ってもらい、タマネギの消費を増やし、農家の所得増大につなげていきたい」と話しています。



自ら考えたタマネギ料理を調理する参加者

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

第21回 兵庫県・兵協連共催 監事研修会 報告

11月2日(金)、兵庫県民会館において兵庫県・兵庫県生協連共催による「第20回監事研修会」を開催しました。この研修会は、生協運営の健全な発展に果たすべき監事の役割と監査の実務のあり方を学び、健全な生協運営を実施していただくことを目的に計画したもので、当日は、11生協1会員外生協から28人が参加しました。

兵庫県 企画県民部 県民生活局 消費生活課 奥見 知子主幹のあいさつ後、日本生協連 総合マネジメント本部 法務局 監事監査支援担当 岡坂 充容氏から「年間時系列による監事監査のポイント」と題して、ご講義いただきました。また、後半のグループディスカッションでは、自生協の監査状況などの情報交換を行いました。参加した監事、役員や職員からは「監事の責務の重さを改めて確認することができました」「他生協から自生協に生かせる有効な会議のヒントをもらうことができました」などの感想が寄せられました。



講師 岡坂 充容氏

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子



リサイクル／再生利用

◆江戸期の暮らしには、リサイクルが盛んに行われていた。鋳掛け屋、汚穢屋、屑屋、悉皆屋、灰屋などである。屑屋は現代も廃品回収と名を変え、古着や鉄屑、古紙、古道具を取り扱い、古新聞や古雑誌のちり紙交換は最近まで有った。食べ物に関しては残り物利用を行い、明治前期にそのものズバリ「残飯屋」という商売があった。軍隊の兵営や士官学校からの残菜を引き取って利用し、時には無償で仕入れた物を安価で提供、最下層に暮らす貧民の糊口を潤す糧となったそうだ。全てが粗悪で不味かった訳ではなく、獣類を屠しての内蔵や焦げ飯など、今でいうホルモン料理や焼き飯の前駆的な食べ物に近かったという。

◆下水道の整備が進み、尿処理は水で流して下水処理場に運ばれて仕舞うが、昭和30年代は糞尿処理は殆ど汚穢屋が行っていた。全て農村へ運ばれ作物の重要な肥料になった。典型的な有機栽培だが、寄生虫の伝播媒介という弱点があった。郷里の家は、便所が家の最奥にあり汲み取りが土間を通って何回も往復するため、実施した日は終日臭いが籠もった。大切な作業であるため文句も言わず、線香を焚いて匂いを消していた。このリサイクル有機肥料は、化学肥料の普及や農業の衰退で消滅した。全家庭の水洗化が進んで昔の思い出となった。

◆生活ゴミの収集日。仕分けして出したゴミが、手際良く収集車に放り込まれ圧縮され、処理場へと持ち去られる。仕事とはいえ鮮やかな手並みに感心する。仕分け間違いで置き去りされた袋は、誰が出したかと調べたら、違う町内の人の名がある紙袋が出てきた。班長が注意を促しに行き一件落着。暮らしの中で不必要なゴミが発生するが、別な収集場所へ出して知らぬフリをするのは良くない。再資源化は、資源の少ない国の宿命で、出来るものは進んで協力しよう。リサイクルは生き物生存に適った、当然の行為であるように思う。

◆トイレットペーパーやティッシュペーパー・紙タオルは、パルプの優れた吸水特性を利用している。ティッシュペーパーは最初から9%の水を含んでいるが、百グラムのペーパーで最大九百十グラムまで吸水できるそうだ。取り込んだ水は簡単には乾燥できない、そうした性質を持つている。薄くて肌触りよく漉くため、製紙会社では工夫を凝らし、鏡の如く磨いた金属ロールを熱し、抄いた紙を貼りつけて乾燥させる。表面がスベスベで特有の風合いが生まれ、肌触り良いものになるという。牛乳パックで、アルミを使わない紙製容器は、フィルムを剥がせば良質のパルプとなる。そしてまたトイレットペーパー等に生まれ変わる。

大輪田塾だより

「協同組合の歴史と「コープこうべ」と「JF兵庫漁連における魚食普及活動」

11月27日(火)、新たに入塾した14期生を迎え、大輪田塾が開講されました。

第1部の「協同組合の歴史とコープこうべ」では、生活協同組合コープこうべ、コープこうべ教育学習センター 齋藤 優子氏が講師を務め、協同組合運動のはじまりや原則をはじめ、コープ神戸の歴史・生協の仕組み等について詳しい説明を受けました。

第2部の「JF兵庫漁連における魚食普及活動」では、JF兵庫漁連指導部 田中久善部長よりSEAT CLUBの発足から活動状況やコープこうべと取組む「ひょうご地魚推進プロジェクト」による産地見学や学習会や店舗販売など地魚消費拡大のための様々な活動について説明を受けました。

塾生は、魚食普及のためには生産者の顔が見える浜からの積極的な情報発信の必要性を感じ、自らが所属する漁業協同組合について考えるきっかけになる有意義な講義となりました。



JF兵庫漁連 田中指導部長の講義



コープこうべ 齋藤氏の講義